

【終了報告書】

研修先大学/ 活動先機関名	Deakin University	参加 プログラム名	ディーキン大学プログラム	国名	オーストラリア
氏名		学籍番号		学科	英語英文学科
参加時の 学年	2年	参加費用 (日本円での概算)	674,130円		
参加日程	2024年 2月 6日 ~ 2024年 3月 9日 (4週間)			記入年月日	2024年 3月 20日

① 参加前について

研修・活動に参加する目標は何でしたか。

現地学生や留学生と積極的に交流して、英語4技能を向上させること。仲良くなった日本人以外の学生と出かける。また、オーストラリアの文化や人々について理解を深めること。

② プログラムについて

研修・活動の感想

プログラムは全体を通して、楽しんで、クラスメイトと協力して行うことができたので満足している。現地での授業に関しては、一つのプロジェクトに向けてグループのメンバーと手を取り合って、完成させることができた。普段の授業では、先生からの質問に対して、積極的に発言をし、間違えることも含めて英語について理解を深めることができる有意義な時間を過ごすことができた。最終週の試験期間に行われたライティングの試験では、これまでに学んできたエッセイの書き方に慣れて、アカデミックなエッセイを書き上げることができ、これからの大学生活でのエッセイの書き方が大きく変化するのではという期待が大きい。また、お休みのILCの時間には、カンパシーションルームをよく利用していたが、そこで日本人以外の友人を作ることができた。そこでは、ディスカッションをしたり、ボードゲームをしながら英語で会話をしたりと普段の授業とはまた違った、英語でのチャットや意見交換ができ、スピーキング力や思考力が向上した。

研修・活動以外の部分についての感想

ホームステイでは、その家の勝手がわからずにホストマザーとうまくコミュニケーションが取れなかった部分があったが、時間が経つにつれて、マザーとどう接していけばいいのかや家の中でどのように過ごしたらいいのかがわかってきて、楽しい時間を過ごすことができた。休日には、マザーに教えてもらった観光スポットを友人たちと巡ったり、時には、1人で観光を試みたりオーストラリアについて理解を深めることができた。放課後には、大学で知り合ったベトナム人の学生とナイトマーケットに行き、お互いの国の文化や学校での様子についてなど様々なことを話しながら、フェスティバルを楽しんだ。また、クラスメイトの紹介で、マイクロソフトのオフィス見学と社員さんとの座談会に参加する機会を得たが、そこで彼らの入社に至るまでの経験や考え方、マイクロソフトについてなど様々な観点からの話を聞くことができ、聞くだけでなく会話もすることができ、大変良い刺激になった。

現地学生との交流について教えてください。 ※交流がなかった場合は、空欄で構いません

大学内で行われるフェスティバルの際に、一緒に並んだ現地学生や出店をしている学生と会話をした。その際には、その人がどんなことに興味があって、学んでいるのかを詳しく教えてくれた。私に理解できるような簡単な内容ではなかったが、自分が学びたい研究した事柄に熱心になれる姿勢にとっても刺激を受けた。ILCの時間のゲームや市内観光を現地学生が企画してくれたが、そこでも一緒にゲームを楽しんだり、写真を撮ったり、交流を深めることができた。

③ 参加の成果について

今回の参加を経て、ご自身の中での学習面・精神面の成果があれば教えてください。

学習面では、スピーキング力とリスニング力が特に向上した。スピーキングに関しては、現在も連絡を取り合っている留学生がおり、その人との電話の際に英語での会話がスムーズにできるようになってきたり、英検などのスピーキングテストで、以前より内容の濃い話ができるようになっていた点で成長があった。リスニングでは、会話の際に相手が言いたいことがニュアンスも含めて理解できるようになったり、リスニングの試験で聞き取れるよう内容が増えていた。精神面に関しては、これまで恥ずかしさからわからないことを聞き返せずそのままにしまったり、質問をされた際に発言できなかつたりしていたが、今回の研修を通して、意見や思ったとははっきり言葉にして伝えることができるようになった。その際に恥じらいや臆することなく相手に伝えられるようになった。道に迷ったり、席を譲ったり、席を借りてもいいかなどを聞いてみたり、現地で様々な経験をしたことで誰かに積極的に頼るために声掛けをすることの重要性を学ぶことができた。それらが気楽にできるようになったことも大きな成長と言える。

④ その他

その他、気づいたことや今後参加する方へのメッセージがあれば記入してください。

日本人の学生がほとんどで、気づくと授業中もそれ以外でも日本語で会話をしてしまっており、それでもなんとか生活できてしまっている時間があり、それだと英語を話す機会がなくなってしまい、意味がないと思った。自分から強制的に英語で話す機会を作り、積極的に日本人以外の人たちと絡んでいくことでようやく留学しているの意味があると強く感じた。また、現地大学からのメールは見逃すと、現地学生との交流の機会を大幅に失うことが多く、特に申し込み期限が設けられているものに関しては、注意しておかないとかなり後悔するため、メールはこまめにしっかり確認したほうがいい。今後参加する方は、与えられた機会には積極的に「Yes!」と言って飛び込んでいくことをお勧めします。また、自分でその機会を作ることができるならば、それをしたほうがいいです。そう言った積み重ねが自分の能力や知識の向上、考え方や交流の仕方の変化につながっていくと思います。

ディーキン大学のシンボル



オーストラリアで最も大きい州立図書館



クラスメイトとペアでエッセイに関するブレインストーミングをした際のプリント



クラスメイトの誘いで、マイクロソフトのオフィス見学と座談会に参加した際の写真

